

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 3 区分
【発行日】令和 4 年 5 月 18 日(2022.5.18)

【国際公開番号】WO2020/003275
【公表番号】特表 2021-530184(P2021-530184A)
【公表日】令和 3 年 11 月 4 日(2021.11.4)
【出願番号】特願 2021-523110(P2021-523110)
【国際特許分類】
H 0 4 N 19/52(2014.01)
【F I】
H 0 4 N 19/52

10

【誤訳訂正書】
【提出日】令和 4 年 5 月 9 日(2022.5.9)
【誤訳訂正 1】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】0 1 7 3
【訂正方法】変更
【訂正の内容】

20

【0 1 7 3】

本開示の技術の実施形態は、既存の実装の欠点を克服し、それにより、より高いコード化効率を有する映像コード化を提供する。本願の説明において、LUT は、テーブル、リスト、配列またはインデックス付きエントリの他の配列であってもよい。

【誤訳訂正 2】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】0 1 7 4
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【0 1 7 4】

30

既存の実装形態の欠点を克服するために、様々な実施形態において、ブロックの動き情報を予測するために、少なくとも 1 つの動き候補が記憶された 1 つ以上のテーブル（例えばルックアップテーブル）を使用する LUT に基づく動きベクトル予測技術を実装し、より高いコード化効率を有する映像コード化を提供することができる。ルックアップテーブルは、ブロックの動き情報を予測するために動き候補を含める際に使用できるテーブルの一例であり、他の実装形態も可能である。各 LUT は、それぞれが対応する動き情報に関連付けられた 1 つ以上の動き候補を含んでもよい。動き候補の動き情報は、予測方向、参照インデックス/ピクチャ、動きベクトル、LIC フラグ、アフィンフラグ、MVD (Motion Vector Derivation) 精度、および/または MVD 値の一部または全部を含んでもよい。動き情報は、動き情報がどこに由来しているかを示すために、ブロック位置情報をさらに含んでもよい。

40

【誤訳訂正 3】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】0 1 7 5
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【0 1 7 5】

開示される技術に基づいた LUT に基づく動きベクトル予測は、既存のおよび将来の映像符号化規格の両方を向上させることができ、様々な実施形態のために以下の例で説明される。LUT は、履歴データ（例えば、既に処理されたブロック）に基づいて符号化/復号

50

化処理を行うことを可能にするため、LUTに基づく動きベクトル予測は、HMVP (History-based Motion Vector Prediction) 法と呼ぶこともできる。LUTに基づく動きベクトル予測方法において、以前にコード化されたブロックからの動き情報を有する1つまたは複数のテーブルは、符号化/復号化処理の間、維持される。LUTに記憶されたこれらの動き候補をHMVP候補と称する。1つのブロックの符号化/復号化の間、LUTにおける関連付けられた動き情報を動き候補リスト(例えば、マージ/AMVP候補リスト)に追加して、1つのブロックを符号化/復号化した後に、LUTを使用してもよい。更新されたLUTは、その後、後続のブロックを復号化するために用いられる。このように、LUTにおける動き候補の更新は、ブロックの符号化/復号化の順に基づく。以下の例は、一般的な概念を説明するための例であると考えられるべきである。

10

【誤訳訂正4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0196

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0196】

以前コード化されたブロックの動き情報としてHMVP候補を規定する、HMVP (History-based MVP) 方法が提案される。符号化/復号化処理中、複数のHMVP候補を有するテーブルが維持される。新しいスライスに遭遇した場合、テーブルは空になる。インター符号化されたブロックがあるときはいつでも、関連する動き情報を新しいHMVP候補としてテーブルの最後のエントリに加える。全体の符号化フローを図31に示す。

20

30

40

50